

## イスラエルが行った非人道的ガザ攻撃を非難し、 ガザ地区からの撤退と封鎖の解除を求める声明

1 昨年12月27日から本年1月18日までの23日間にわたるイスラエルのパレスチナ自治区ガザに対する空爆、地上侵攻により、1300人以上のパレスチナ人が死亡した。うち半数以上が一般市民であり、さらに市民の犠牲者は女性・子どもが大半とみられている。イスラエルは、民間人の犠牲が多数予想される人口密集地、さらには、病院・学校を含む国連施設をも攻撃し、かつ、最近の調査により、かかる市街地・国連施設に対する攻撃に非人道的な兵器である白リン弾が使用されたとの報告もある。イスラエルは、昨年末の攻撃以後、国連決議、安保理事会決議等を含め、再三にわたり、世界中から攻撃中止を求められたにもかかわらず、空爆に続き、地上侵攻へと攻撃を継続し、甚大な犠牲を生じさせた。

イスラエルの攻撃は、いかなる理由によっても正当化されるものではなく、戦争犯罪というほかない。

2 本年1月18日以降、イスラエルは一方的停戦を宣言、ガザからの撤退を開始し、ハマス側もこれに呼応してロケット攻撃を停止していた。しかしながら、その後も、28日にはイスラエルの空爆が行われており、攻撃再開のおそれは消えない。

3 私たち自由法曹団は、イスラエルがガザに対して行った非人道的攻撃を強く非難するとともに、イスラエルに対してガザに対する攻撃の完全な中止とガザ地区からの撤退及びガザ地区に対する非人道的な封鎖解除を直ちに行うよう求めるものである。

2009年2月3日

自 由 法 曹 団  
団長 松 井 繁 明